

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年7月）

目 次

内 政

- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆2016年後半のEU議長国に関する外相会見 2
- ◆ジェンティローニ外相の当地訪問 2
- ◆移民の受け入れに関するオーストリアとの協力 3
- ◆ギリシャ債務危機に関する首相発言 3

社 会

- ◆ロマ人女性に対する傷害事件 3
- ◆スロバキア社会の課題 3

経 済

- ◆モハウツェ増設におけるチェコ企業との契約拡大 4
- ◆起亜スロバキアの上半期の生産状況 4
- ◆政府によるガス料金値下げの決定 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（7月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政党支持率調査結果（7月28日）

世論調査機関 Polis が公表した政党支持率調査の結果によると、与党 Smer が SNS と連立を組む場合、議席数は 150 議席中 76 議席の見込みである。また、OLaNO と Nova の連合は、両党関係者の期待を下回る結果となった。

政党	支持率
Smer（方向）	35%
Siet（ネットワーク）	12%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）＋ Nova（新たな多数派）	8.9%
SNS（スロバキア国民党）	8.3%
Most-Hid（架け橋）	8.1%
KDH（キリスト教民主運動）	7.9%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	5.1%

外 政

◆2016年後半のEU議長国に関する外相会見（7月1日）

ライチャーク外相は、スロバキアが、総予算を7000万ユーロ以下に抑えて、V4の中で最もコスト効率の良いEU議長国となる計画を有していることを発表した。現在、スロバキアとトリオ議長国を構成するオランダ及びマルタとの間では、優先課題がデジタル単一市場及び起業支援を含むことで合意している。政府は新たなポストであるEU議長国担当特使にコルチョク・EUスロバキア政府代表部大使を任命した。今後、コルチョク大使は各欧州機関と積極的に連絡をとっていくことになる。

◆ジェンティローニ外相の当地訪問（7月3日）

ライチャーク外相とジェンティローニ外相は、スロバキアとイタリアの関係が長期にわたり安定し友好的であり、高い水準にあると評価し、両国は政治・経済の分野で更に関係を深めていくことに関心を有していることを強調した。また、イタリアとヴィシエグラード4カ国との協力の可能性についても協議した。両外相は、ウクライナ情勢、ギリシャ情勢及び移民問題といった欧州の最重要課題についても意見を交わした。この他、両外相は二国間協力を更に拡大させる2つの文書、「文化・教育・科学技術分野における協力に関するスロバキア・イタリア政府間協定」及び「スロバキア外務・欧州問題省とイタリア外務・国際協力省の間の協議と協力に関する覚書」に署名した。

◆移民の受け入れに関するオーストリアとの協力（7月9日）

ガプチーコヴォの難民キャンプが再び使用される。今後数ヶ月で、オーストリアから500人の難民が来ることになる。オーストリアでの亡命手続が完了するまで、スロバキアに滞在する。主に旧ユーゴ諸国からの難民を受け入れる。どこで難民を受け入れるのかは、今のところ明らかにはされていないが、カリニャク内務相の考えでは、過去に亡命申請者のための難民キャンプとして使用されたことのあるガプチーコヴォの施設が適している。最初の50人の難民は7月中に受け入れ、8月に200人、9月に250人を受け入れる見込みである。計画の詳細は、7月末に予定されている協議の終了後に明らかにされる。（21日、両国の内務相は受け入れに関する覚書に署名した）

◆ギリシャ債務危機に関する首相発言（7月12日）

ギリシャへの融資は決定されなかった。フィツォ首相は、「我々はギリシャに数多くの宿題を課した。なぜなら更なる財政支援を受けるならば、先ず、極めて重大な課題をこなす必要があるからである」と述べた。また、同首相は、ギリシャ債務の名目上の減免を認めなかったことを強調し、「確固たる態度が必要である。なぜなら、誰かがギリシャを傷つけた訳ではなく、ギリシャが自らを傷つけたからである。したがって、財政支援を期待するならば、課題を解決する必要がある」と述べた。

社会

◆ロマ人女性に対する傷害事件（7月16日付プラウダ紙）

12日、薬学を専攻する22歳のロマ人女性が、スロバキア中部のデトヴァで行われたフォークロア・フェスティバルにおいて殴打され、マルティン市内の病院に搬送された。彼女とその家族は、肌の色が原因で襲われたと信じている。他方、警察は人種差別に関わる犯罪としては捜査していない。スロバキア人権センターは、ロマ人女性への攻撃を厳しく非難し、「今日、若い女性が文化イベントの最中に外見を理由に殴られたならば、明日は、子供や障害を負った人々が攻撃されるかもしれない。そのような事態が生じるかどうかはスロバキア社会次第である」と訴えた。

◆スロバキア社会の課題（7月30日付プラウダ紙）

世論調査機関 Polis が実施した調査によると、スロバキアが現在直面している最大の課題は失業率の高さであり、回答者の43.1%が同問題を挙げた。次いで移民39.7%、医療28.8%、年金27.5%、低賃金25.8%という結果であった。また、課題解決の必要性を自覚している政治家は誰かとい

う質問には、回答者の33.3%がフィツォ首相の名前を挙げ、次いで、カリニャーク内相10.9%、プロハーツカ Siet 党首10.5%、マトヴィチ OLaNO 党首10.3%、ライチャーク外相10.2%という結果になった。

経 済

◆モホウツェ増設におけるチェコ企業との契約拡大（7月15日付スメ紙）

チェコのシュコダJS社（JS）が、新たにモホウツェ原発増設に係る供給を管理する可能性がある。同社は、スロバキア電力会社（SE）と協議中であり、JS広報担当のストラール氏は、「我々がすでにSEと結んでいる従来の契約に、更に増設工事全体の供給活動に係る調整が加わる見込みである」と述べた。J&Tグループのエネルギー関連アナリストであるシュノブル氏が指摘するように、露ズベルバンクはSEに対し8億7000万ユーロの貸し出しを行っている事実があり、露OMZ社の傘下にあるJSが主要な供給者になるのは不思議なことではない。合意した場合には、数千万ユーロ相当の契約になると考えられる。

◆起亜自動車スロバキアの上半期の生産状況（7月16日付プラウダ紙）

ジリナ市近郊所在の起亜自動車スロバキアは、本年上半期で16万9000台以上を生産し、年間を通じて、工場の生産能力を十分に活用できる見込みである。昨年、同社は32万3000台を生産した。本年にはスロバキアにおいて1億4000万ユーロの投資を計画している。現在、同社はスロバキアで最大の生産と輸出を誇る3社の1つであり、2006年12月の生産開始以来、200万台以上を生産してきた。スロバキア工場では、本年上半期に28万5000機以上のガソリン及びディーゼルエンジンが生産され、その半数以上はチェコで操業する現代自動車ノショヴィツェ工場向けであった。

◆政府によるガス料金値下げの決定（7月29日）

家庭向けガス料金の値下げは、昨年政府が発表した「国民の生活水準を上げるための15の施策」の中で実施されていなかった最後の施策であった。フィツォ首相は、2015年末に年間のガス使用料金の6%を還付することを明らかにした。同施策に係る政府負担は4700万ユーロに上る見込みであり、約140万人が対象となる。国有のスロバキア・ガス工業会社の業績向上、更に、財政安定化と歳入増加も6%の還付の実施を可能にした。フィツォ首相は、「我々は2014年から2016年の間で税収を15億ユーロ増加させる計画を立てていた。我々はこの数字を達成した。公的債務や財政を脅かす不安もないことから、今回の決定が可能になった」と説明した。

◆スロバキア中央銀行月報（7月）

1. GDP

5月のスロバキア経済は、売り上げ、鉱工業生産及び輸出が伸びたものの、より緩やかな動きに留まった。売り上げ全体の伸びは、前期比で2.1%となった。鉱工業の売り上げ、自動車及びIT通信部門の売り上げの伸びが減速し、全体の成長速度を鈍化させた。逆に、卸売及び小売の売り上げは、特にIT製品、衣類及びチェーン店における商品の販売により若干成長が加速した。5月は主に建設部門の生産が力強い伸びを見せており、これは投資需要の増加を示している。鉱工業生産は前期比1.5%と成長基調を継続した。自動車産業が低水準ではあるものの成長を確保した一方、電機産業が全体の鉱工業生産の数字を大きく引き下げた。

2. 雇用率及び賃金

5月の雇用率の伸びは、前年同期比で2.3%（4月は1.8%）に加速した。特定の民間サービス部門、特にリース、賃貸、広告及び不動産部門が伸びに貢献した。6月の季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比0.07%上昇して11.55%となった。賃金に関して大多数の部門が鈍化する中、建設部門における賃金上昇が際立つ結果となった。5月の賃金上昇の伸びはわずか0.7%と鈍化したが、第2四半期全体としては2%近くになると予測される。5月の平均名目賃金は843.5ユーロであった。

3. 物価

6月の消費者物価指数は4月及び5月と同じく前年同期比0.1%減であった。前月比では、0.1%の上昇を示した。食料品価格の上昇は予測を若干下回ったが、エネルギーを除く鉱工業製品の価格上昇は前年同期比で若干加速した。その他の主要な物価項目は予測どおりの動きを示した。短期的には、前年同期比での物価水準が7月に0.0%に戻り、2015年末には、若干のプラスに転じる見込みである。

4. 貿易

自動車産業における弱含みの生産の動きと電機部門における著しい生産の落ち込みが輸出の鈍化をもたらした。5月の輸出は前年同期比2.4%減、輸入は2.8%増となった。5月の貿易黒字は1億5200万ユーロであった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

